令和元年度
新東名高速道路建設に伴う発掘調査

稲荷木遺跡（いなりぎいせき）

主催　公益財団法人かながわ考古学財団
共催　秦野市教育委員会

縄文時代中期～後期の大集落

稲荷木遺跡の発掘調査

秦野市戸川に所在する稲荷木遺跡は、中日本高速道路株式会社が計画する新東名高速道路建設に伴い発掘調査を実施しています。

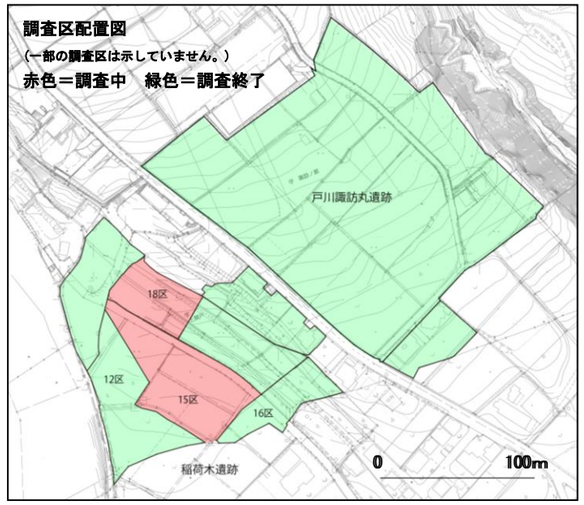
2016（平成 28）年８月から着手した調査において、縄文時代から江戸時代にいたるまでの遺構や遺物が発見されました。

縄文時代では、敷石住居跡や竪穴住居跡などの居住域と、配石墓や土坑墓などの墓域、配石遺構などの祭祀域が確認され、これらからは土器や石器など多くの遺物が出土しています。奈良・平安時代では竪穴建物や土坑など、江戸時代では 1707（宝永 4）年の富士山噴火による火山灰を埋めた「宝永火山灰の廃棄遺構」が発見されています。

縄文時代後期の集落は、住居や墓、配石遺構などに多くの石を配していることが特徴です。さらに墓域周辺では地面を削って平らにするといった大規模な土地造成の様子もうかがえます。

これら先人達の足跡を、郷土秦野の歴史を探る資料として、活用していただければ幸いです。

調査区空中写真



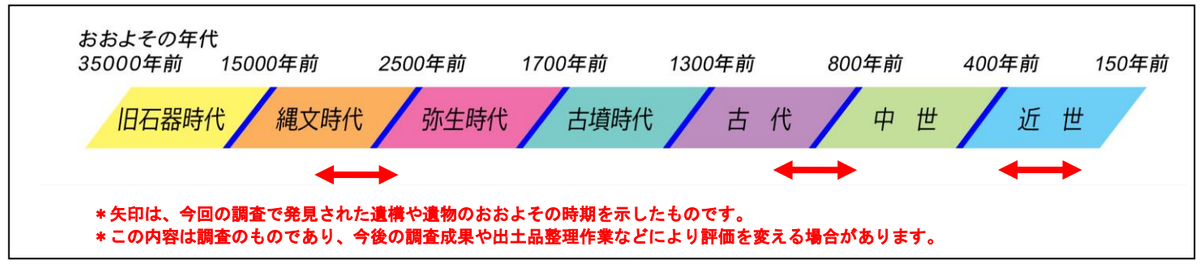
事業用地内の遺跡には戸川諏訪丸遺跡と稲荷木遺跡の名称が付けられています。発掘は、調査区を分割して実施しています。

稲荷木遺跡では 3 区・12 区・16 区・17 区などの調査は完了し、建設工事が進められています。

戸川諏訪丸遺跡では、獲物を捕獲する落とし穴約 100 基が発見され、縄文時代後期以降に狩猟場として主体的に利用されていたようです。

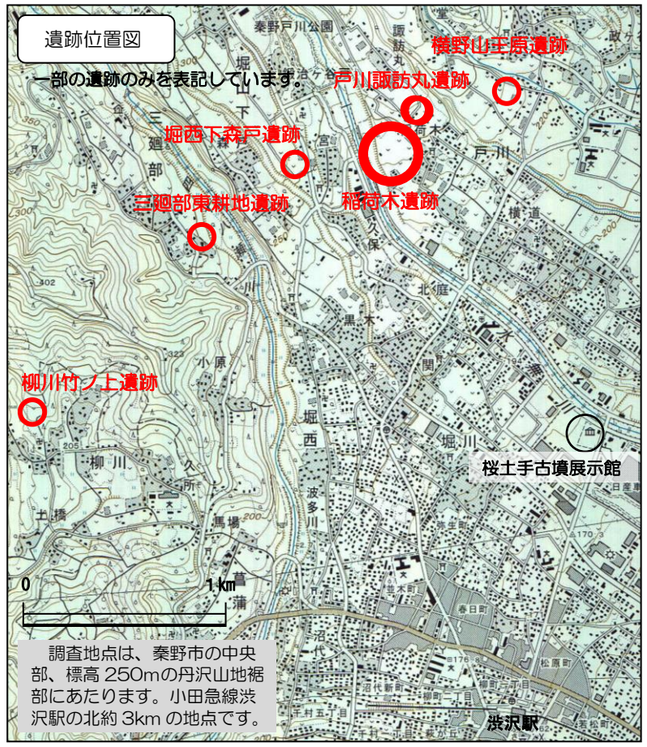
現在稲荷木遺跡の調査区中央部分を調査しているため、全体の詳細はまだ明らかではありません。

これまでの調査で、縄文時代中期初頭から後期末葉までの住居跡が広がりをもって発見され、長期間集落の営みが続いていたと考えられます。



＊矢印は、今回の調査で発見された遺構や遺物のおおよその時期を示したものです。
＊この内容は調査のものであり、今後の調査成果や出土品整理作業などにより評価を変える場合があります。

文化庁
「地域の特色のある
埋蔵文化財活用事業」



測量・記録作業

確認された遺構や遺物は、土層の堆積などの記録をとりながら写真撮影や出土位置などの測量を行い、調査を進めていきます。

令和元年度
新東名高速道路建設に伴う発掘調査

稲荷木遺跡見学会資料

2020 年 2 月 8 日

（公財）かながわ考古学財団

〒232-0033　横浜市南区中村町 3-191-1
℡045-252-8689　http://www.kaf.or.jp